

令和元年10月21日

報 告 書

江田島市議会議長 林 久光 様

令和元年度議会報告会 2班

江田島市議会議員 山本 秀男 (班長)
江田島市議会議員 酒永 光志 (副班長)
江田島市議会議員 浜西 金満
江田島市議会議員 吉野 伸康
江田島市議会議員 上松 英邦
江田島市議会議員 沖元 大洋
江田島市議会議員 上本 一男
江田島市議会議員 熊倉 正造
江田島市議会議員 長坂 実子

議会報告会に出席しましたので、次のとおり報告します。

1 日程 開催地及び人数

	開催日時	会場	参加人数
能美地区	7月18日(木) 13:30~15:30	能美市民センター 1階多目的室	23人 男13人 女10人
大柿地区	7月20日(土) 13:30~15:30	大柿市民センター 2階研修室	22人 男13人 女 9人

2 役割(司会、報告者、受付、記録)

区 分	能美地区	大柿地区
司 会	酒永 光志	酒永 光志
報 告 者	議会：吉野 伸康 総務：浜西 金満 文教：上本 一男 産建：上松 英邦	議会：吉野 伸康 総務：浜西 金満 文教：上本 一男 産建：上松 英邦
答 弁	全 員	全 員
受 付	沖元 大洋 熊倉 正造 長坂 実子	沖元 大洋 熊倉 正造 長坂 実子
記 録	長坂 実子	熊倉 正造
タイムキーパー	事 務 局	

3 定例会の概要及び各委員会報告

下記の事項について報告した。

(1) 6月定例会の概要について

(2) 各常任委員会からの報告について

(総務常任委員会、文教厚生常任委員会、産業建設常任委員会)

4 質疑応答

【能美地区】(参加者23人)

(一般質問について)

Q1 9名が一般質問をしたが、今回の議会報告会の課題に上がらないのか。

今、江田島市では高齢者の対応が一番の問題であると思うが、6月定例会の一般質問では1項目も上がらなかった。高齢者、少子化に目を向けてほしい。

A1 一般質問については、議会だよりを定期的に発行しているので、そちらでご了承いただきたいと思います。高齢者、少子化に関する施策についてのご意見については、後ほど意見交換会でお伺いします。

(委員会活動について)

Q2 委員会報告について、カレンダー報告はあるが、内容についてホームページにアップしていない。委員会で今ど様な事を協議しているのかりアルタイムで市民に伝えてほしい。地元のために委員会で何をしているのか知りたい。

A2 持ち帰って協議をします。

(財政について)

Q3 4町の合併後、どの市長が一番お金を使ったのか。

A3 合併当初の平成17年度では財政調整基金、減債基金、その他の基金、預金が53億8千万円。平成28年度は約100億円。平成30年度末は94億2,500万円。だから一番多くあったのは、田中市長の時です。実質、予算のなかで一番大きいのは今回災害もありましたから、今年の一一般会計当初予算が170億円を超えております。

(危機管理課の職員研修について)

Q4 危機管理課の新人は災害時の対応ができていなかった。新人研修が必要なのは。

新人に任せきりだが、部長課長などの管理職は災害時に泊まらないのか。

A4 危機管理課の職員研修については持ち帰って行政に報告します。

(災害時の初動体制について)

Q5 災害時の初動体制について、議員一人ひとりが理解を深めたうえで議会

として執行部と議論し、初動体制の改善に努めてほしい。また、初動体制改善に向けた議論をする際には、高齢者が安心して避難できる体制についても十分に留意してほしい。

- A 5 災害時の初動体制については、実際に一部の避難所の体制が悪いという話が委員会でも出ましたので、委員会から執行部に報告しております。また、我々としてもこの問題に対応をしていかなければと思っています。

(生活保護の支給状況について)

- Q 6 新しい議員になってから、高齢者の生活が見えない。生活保護者がどうしているのか。介護保険の利用者の状況がどうなっているのか。まず、生活保護者の増減を報告してほしい。

- A 6 生活保護の支給状況について報告します。生活保護受給世帯について、平成30年度の保護世帯が162世帯、保護人員が194人、保護率が8.3%、遡って、平成27年度は保護世帯が179世帯、保護人員が218人、保護率9.1%という状況です。

(議会の傍聴について)

- Q 7 インターネットでの議会中継や録画配信を始めてから傍聴者数が減っているが、それはデメリットではないか。議員も執行部も緊張感がなくなっている。議員は傍聴に来てほしいという姿勢をしっかりと出すべきだ。

- A 7 インターネットでの議会中継や録画配信については、傍聴に來られない人の事を考えたらどうしても必要なことです。現在は、本会議のみを対象としておりますが、委員会への対象の拡充については、今後、議員間で協議していきたいと思ひます。

【大柿地区】(参加者22人)

(議案の賛否について)

- Q 1 採決の結果について、議案の場合は「賛成多数」と表現されています。対して発議の場合は「全会一致」とある。賛成多数は、反対された人もいと考へていいのか。

- A 1 議会だよりに掲載してますが、反対した者もいます。過半数の場合は賛成多数という形で、発議のほうは議員の皆さんの同意を得て全会一致で採択したということをやっています。

(米軍機の騒音対策等について)

- Q 2 本日配付された資料には、米軍機の騒音対策について書かれているが、飛行機は毎日のように飛んでおり、騒音に悩まされている。特に、海上自衛隊第1術科学校の卒業式などの行事がある際には、消防署やこども園、江田島小学校の上空などを低空で飛行するため、本当に迷惑している。

また、近年多発している沖縄での米軍機の事故のこともあり、江田島市上空を飛行すること自体に大変な不安を感じている。

そこで、市民が騒音や事故への不安に悩まされることのないよう飛行経路の変更と江田島市が把握している米軍機の飛行経路の市民への事前周知を要望する。

A 2 まず、騒音対策についてですが、今、騒音測定器を本庁と沖地区に設置しております。議会としては測定器の設置箇所を増やすよう一般質問を行い、市当局が現在検討しているところです。今後も引き続き騒音測定器設置箇所の拡充に努めてまいります。

次に、海上自衛隊や米軍機の飛行ルートのことですが、持ち帰り、執行部に伝えます。

Q 3 米軍の騒音について、飛行機が低空飛行で飛ぶ音だけでなく電波も出ている。飛渡瀬の江能老人福祉センター上の方の家なので、15時から17時に低空飛行でヘリが飛ぶとBSの電波が入らない。音もあるけど電波障害もある。

A 3 その件は、危機管理関係部門と十分協議をさせていただきたいと思いません。

Q 4 米軍機の飛行ルートや高さは日本側が規制できないので議員から国のに話をする必要があるのではないかと。次に、海上自衛隊のセレモニーの飛行ルートの件、本当に海上自衛隊の飛行機であれば子どもたちが学ぶところや防災拠点の位置を把握しているにもかかわらず、その上を低空飛行することは意識的にどうかなと思う。事故が起きないことはないと思うので、低空飛行することが事前にわかっているのであれば学校に一報入れるとか、ルートの変更を求めるとか、できるのでないか。米軍機の方は難しいと思うが。

A 4 飛行ルートについては、広島防衛施設局へ申し入れを行っていきます。

(災害対応について)

Q 5 自助、共助、公助プラス近助と言っていますが、これは地区によってまだまだ温度差があるのではないかと思う。個人的な感想だが、本当にこれから進めてもらいたい。

Q 6 江田島市が警備会社と契約して、地震の際にドローンを陀坊山の上から飛ばし、豊後水道を撮影すれば津波の状況がわかるのでいいと思う。江田島市ではそのような契約は存在しないのか。

A 6 ありません。今後の防災会議等で検討されると思います。

(三高中学校について)

Q 7 三高中学校存続の話は以前もあったのではないか。その辺の意図がわかれば教えてほしい。

A 7 三高中学校の件ですが、平成21年に江田島市の小中学校を統合するという答申が出されました。その中では三高中学校は能美中学校の完成後に統合するという方針で、平成22年頃に答申に関する説明会を実施しております。

しかし、能美中学校が平成25年9月に落成した後の平成26年9月と平成29年9月に教育委員会が行った地域住民、父兄を対象にした説明会で、教育委員会の説明が一貫していないということから住民の理解が得られず、今日まで統合できずにあります。

(民泊について)

Q 8 民泊受け入れは、市外の子ができるのに、なぜ江田島の子が体験できないのか。

A 8 民泊について、例えば切串の小学生が三高の小学区に民泊に行く、江田島の子にとって素晴らしいことだと思います。持ち帰り執行部へ提案させていただきます。

(有害鳥獣について)

Q 9 どうしてイノシシを増やさない方法で駆除できないのか。

イノシシが妊娠しないようにする薬を開発し、利用するなど、捕獲以外の方法でイノシシの増加を抑制するよう議員が執行部に働きかけてほしい。

A 9 今は捕ることと柵を作ることしかしておりませんが、産業建設常任委員会のほうでも協議します。

Q 10 有害鳥獣処理施設でジビエカーを導入するつもりはないのか。最近トヨタで開発された移動式解体処理車をきちんとした処理能力がある人に貸し出せば肉の販売等で利益が上がってくる。現在、1頭5,000円でイノシシを命がけで獲っているが、5,000円以上になると思うし、商品化もできると思うのだが、どうか。

A 10 私たちもジビエの件、承知しています。いろいろ考えているのですが、これという手当が見つからないのですが、私たちが引き続き勉強し、執行部に提案してします。

(海洋汚染について)

Q 11 海の漂着ごみの件で、いま問題となっているのはプラスチックごみが小さな破片になったマイクロプラスチックである。特産品のカキは1日にドラム缶1個ぐらいの海水を吸い込む。その際、マイクロプラスチックも一緒に吸い込んでいると思うので、一度安全性を確かめるべきでないか。

A11 これは世界的な問題で、江田島市単独では難しいと思います。
今後は、広島県と協議しながら、広島県も国と協議すると思います。

5 意見交換会《テーマ：市民と考える「人口減少対策」》

〈市民からのご意見〉

【能美地区】（2グループで実施）

第1グループ

〈産業・観光〉

- 民泊は受ける人が少ないので、受け入れがしやすい体制づくりに努める。
- ダチョウを飼う。みんながめずらいと思うものを飼う。
- 定住対策に、仕事の間を生み出すために企業誘致をする。
- 市内の慰霊碑を市がちゃんときれいにするべき。観光につながる。
- たくさんある空き施設の利活用
- 農業振興

〈安全・安心〉

- 災害に備え、排水ポンプ、防災カメラ等の日常点検を強化する。

〈生活・環境〉

- 若い人が結婚してこの江田島に住めるような状況にする。
- 定住対策
- 職員の市外居住対策。市外居住者にどうやったら市内に住みたいかを聞く。
- イノシシ対策に本腰をいれる。
- 世羅町は町民全員が町をきれいにしているのに対し、江田島市は草がぼうぼう。まちをきれいにしてもっとPRする。
- 職員の市外居住者を市内に居住させる。
- 荒廃した農地対策を進める。
- 環境を良くする。ごみ処理、美化する。
- 割ときれいな空き家があったら改修して、市の広報に出す。
- 高齢化がひどく、一斉清掃も地域でできなくなっている。島の一か所に集めて住むようにする。

〈教育・文化〉

- 子どもたちが安心して教育を受けられる教育行政を考える。
- さとうみ科学館の充実と宣伝

〈基盤〉

- 高齢者運転免許証返納対策に手を打つべき。替わりとなる移動手段を考える。
- 交通対策 高校生の通学や親子で通うならその対策をする。
安く便利で通いやすくなればいくらでも住むと思う。高すぎる。

- 船賃が高すぎて、島にも住まないし、交通の便が悪くて島の中でも移動ができない。自然がいいのにもったいない。
- 橋をかける。

第2グループ

〈産業・観光〉

- 空き店舗がなんとか継続するように支援する。
- カキのむき身生産量が日本一であることを広報でしっかりアピールする。
- 家財や仏壇等があると空き家バンクに登録できない。でもそんな空き家はたくさんある。空き家の貸し出しが必要。

〈生活・環境〉

- 市営住宅をきれいにし、市外からの入居を促進する。
- 市の職員を市内に居住させるべき。
- 荒廃農地対策を進める。
- 広島市内の人がここに住んで、広島市内に仕事に行けるように、市が対策を講じる。若い子育て世代が住めるよう船賃を安くして便利が良くて港に近くに住めるようにする。
- 敬老会に市がお金を出しているのをそろそろ見直しをするべき。そのお金をほかの福祉で使うべき。

〈教育・文化〉

- 学力のアップを。
- 海士町のほうは、いい学校を出ているような人が勉強を教えたり、あと、高知のほうだったか、住んでくれたら中学になったら1カ月くらいニュージーランドのほうにホームステイさせてくれるところもあるし、そういう魅力ある取組を進める。
- 教育が大事

〈基盤〉

- 三高、中町、切串の港の近くに若い人が住めるように住宅を建てるか、家を改修して住めるようにする。市外の子育て世代がこっちに住んで広島や呉に通えるように、家賃も安くしたり、家も安く提供して若い人がここに住んで広島に通えるようにしたらいいのでは。この辺の空き家を改修して安く貸すとか、市が住宅を建てるとか。
- 夕日を魅力に思い、沖村に移住者があるが、結局、医者やスーパーが遠いと言って、また出ていく。バスも少ない。切串や沖美の特に沖村のほうは困っている。
- 若い人の結婚対策をするべき。

- 若い人に市営住宅に入るのに補助を出すとか、家賃を補助したり、子どもが生まれたら補助したり、抜本的な対策をする。

【大柿地区】（2グループで実施）

第1グループ（参加者14人）

〈産業・観光〉

- 働く場所の確保と交通利便性の向上を図る。
- 深江～岩国錦浦橋空港への航路の新設
- 番船の普及

〈生活・環境〉

- 市職員の市外在住通勤を考える。
- 空き家に関する情報発信の拡充
- 生活基盤の安全性、利便性の確保
- 財源の確保
- 市の特色、特長を発信
- 働く場所の確保を議員が提案する（例えば、老人ホーム施設）。
- 広島市への架橋
- 人口減少対策
- 老人対策
- 転出した人の意見を聞く。

〈教育・文化〉

- 幼児教育の充実（特色のある教育）
- 中高一貫校の設立
- 教育の更なる向上
- ふるさと納税を財源とする大柿高校の進学者への奨学金制度創設
- 観光産業ではなく、保育～高等学校まで特色ある教育に注力する（自然、命、パーマカルチャー、大柿高校にカキ・みかん・オリーブなどについて学ぶ地域産業コースを新設する。）。
- 大柿高校に水族館部を設ける（愛媛県の長浜高校を参考に）。

〈福祉・保健〉

- 産婦人科のある病院をつくる。
- 2人以上出産した方に市からお金を支給する（例えば2人目を産んだら50万円、3人目は100万円支給する。）。

〈基盤〉

- 空き地（市所有等）を利用した市民農園づくり（アトランタではフードフォレストを造成中）。

〈その他〉

- 少子化対策、人口減少対策、活性化対策は三位一体。これらを（別々に議論せず）同時に議論すべき。

第2グループ（参加者6人）

〈産業・観光〉

- 起業補助を手厚くする。
- 働き場所が少ないのでその対策を
- 民泊に来た生徒の感想を聞く。
- 花、カキ小屋などの更なる充実を図る。

〈安全・安心〉

- 子どもたちが安心して遊べる場所をつくる。
- 自治会、民生委員を大切に（災害ボランティア 市内761人、市外1,747人）する。

〈生活・環境〉

- 働き方改革を推進する。

〈教育・文化〉

- 学校（少人数）を増やす、つくる。
- 特色ある学校をつくる。
- 大柿高校（水産・農業）専門科をつくる。

〈福祉・保健〉

- 福祉施設の充実を図る。
- 放課後の子どもと高齢者のふれあいの場を設ける。
- 一人暮らしの人、近所の人との助け合い。

〈基盤〉

- 若い人たちの交流、集まりをつくる。
- 若い世代も地元の活動に参加しやすい環境づくりを進める。
- 広島市内で働く住民に対する補助を制度をつくる。
- 市内の公共交通を充実させる。
- 報告会に25%は参加できる会にする。
- 働く若い世代へのフォロー、補助をできるようにする。

- お金持ちの江田島市（議員定数等）
- 市役所窓口の市民のための改革を進める。
- 市役所と市民の信頼関係の一層深化させる。
- 現在住んでいる人が満足できる市をつくる。

〈その他〉

- 江田島市市民憲章の実現

5 まとめ（所見）

（1）定例会の報告について

報告書に書いてあることを、時間をかけて丁寧に読み上げるような報告の時間は必要ないという意見があった。報告書を読めばわかるので、次回の定例会の報告から、定例会の要点だけを伝えるようにして質疑や意見交換に時間を十分にとるべきである。

（2）意見交換会について

市民から意見を出していただくばかりではなく、議員の意見や主張を聞きたいという意見があった。議員の主張を入れるには、時間が限られているので、例えば、ワールドカフェ形式など、市民の意見交換としての満足度を上げるスタイルを検討するべきである。

（3）全体をとおして

市民が意見を出してもその場で回答がなく、持ち帰って検討します、という答えに不満を感じている市民がいる。いただいた意見については、各委員会に振り分け、対応を検討し、検討結果をホームページなどで公表していく必要がある。